

ビザなし交流開始から20年

—平成23年度第1陣訪問団が出発5/14—

領土問題の解決と日本とロシアの相互理解を深めることを目的に、平成4年から開始されたビザなし交流も、今年度で20年を迎えました。

悪天候のため1日遅れの出発となった平成23年度第1陣の訪問団は、北方四島交流北海道推進委員会の長尾明宏会

四島交流等事業船舶名称「えとぴりか」に決定

5月12日、北方領土問題対策協会が建造中の、北方四島交流等事業に使用する船舶の名称が「えとぴりか」と決定しました。

この船舶は、北方領土ビザなし交流や自由訪問に使用するもので、領土問題に広く関心を持ってもらおうと全国に公募していました。

応募総数2、469件中22人からの応募があった「えとぴりか」は、ふるさと（北方四島）と日本本土を自由に行き来するエトピリカの美しい姿と、ビザなし交流による相互訪問や元島民等の熱い思いにあふれる自由訪問のイメージと重なり、北方四島交流等事業に使用する船舶にふさわ



根室港を出港するビザなし交流の第1陣

長を団長に、元島民や返還運動関係者など46人が参加し、国後島に向け根室港を出発しました。

節目となる第1陣訪問は、国後島でロシア人家庭を訪問するホームビジットや木工芸を通じた住民交流、島内視察を行いました。

参加者のこの経験が、幅広く国民へと伝えられることを期待し、16日の帰港後に解散となりました。

しいと決定されたものです。

新しい船舶は来年1月に竣工し、5月のビザなし交流からの運行が予定されています。



北方四島交流等事業の後継船舶「えとぴりか」
船の概要 全長約66.5m・幅約12.8m・総トン数約1,150t

ロシア水域サケ・マス漁出漁

—花咲港から一斉に漁場へ—

ロシア二百カイル水域で操業する北洋サケ・マス漁の小型船18隻が、5月2日、集結していた花咲港から一斉に出漁しました。

当日は、時折雨がぱらつく天気でしたが、大漁を願う多くの市民が見送りに集まりました。今年も、消費の低迷や価格形成など、厳しい環境の中での出漁となりましたが、根室を代表するサケ・マス漁に大きな期待がかかります。

また、東日本大震災で被災した12隻が出漁を断念することとなった中型船。小型船に続き13日に、花咲港から大漁旗を掲げた8隻が出漁し、根室はサケ・マス漁の最盛期を迎えます。



津波などの緊急伝達が瞬時に —全国瞬時警報システム運用5/1—

津波などの緊急情報を、自動で伝達する「全国瞬時警報システム（Jアラート）」が、運用を開始しました。

これまでは、国などからの情報を市の職員が確認し、防災行政無線で流していました。が、市役所に設置の受信機が、情報を受信するとともに自動音声で放送され、より早い伝達が可能となりました。

伝達情報は、「大津波」「津波」の警報、予想震度4以上の「緊急地震速報」など8種類で、地震情報は揺れの到達までに間に合わない場合は、放送されないこともあります。放送は、津波の場合はサイレン、緊急地震速報は電子音で始まります。

